

L^AT_EX マクロライブラリ

dennou.sty

地球流体電脳倶楽部

*Id : Dennou — drv.doc, v1.32001/04/0300 : 20 :
56mymExp*

目 次

1 Dennou6.sty

1.1 概要

Dennou6 L^AT_EX スタイルは, L^AT_EX を用いた, マニュアル, 論文等の作成に便利な, マクロ定義スタイルファイル集である¹ 電脳ライブラリのマニュアルもこのマクロを用いて書かれている.

1.2 構成

Dennou6 L^AT_EX は, 以下に挙げるマクロ群を提供する.

D6style.sty	ページスタイル等の指定
D6misc.sty	ラベル参照, いくつかの便利な環境
D6math.sty	数式表現マクロ
D6float.sty	図表環境パラメータの再定義
D6prog.sty	プログラムリストの挿入
D6select.sty	部分選択してフォーマットする
D6graphicx.sty	PS ファイルを取り込むための環境を提供
D6fulpage.sty	ヘッダフッタをなくしてページ全体を本文に使う
D6comment.sty	ファイルの一部をコメントとして扱う
Dennou6.sty	また, 以上のうちで, D6style.sty から D6epsf.sty までをまとめたものとして, Dennou6.sty を用いることができる. Dennou6.sty では, さらに \Dnoparindent が実行される (D6misc.sty を参照) また, \Dnewselect{J} が実行され, jarticle 等の指定がある場合には \DonJ が, article 等場合には \DoffJ が実行される (D6select.sty を参照).

1.3 使用法

Dennou6.ins を L^AT_EX で処理すると doc ファイルからスタイルファイル (*.sty) が生成される. これらスタイルファイル群を L^AT_EX の標準スタイルファイルを置くディレクトリまたは環境変数 TEXINPUTS の示すディレクトリに入れる².

D6graphicx.sty は L^AT_EX の標準拡張パッケージである graphicx パッケージを利用してゐる. このパッケージが無い場合 CTAN (The Comprehensive TeX Archive Network)³ :macros/latex/packages/graphics 等から入手すること⁴.

使用に際しては,

```
\documentclass[a4paper]{jreport}
\usepackage{Dennou6}
```

¹なお, 開発に使用した T_EX のバージョンは 3.14159, pL^AT_EX2e は 1999/08/09 版である.

²Makefile 中の TEXMF.DIR で指定し make install すればよい

³日本国内では ftp.lab.kdd.co.jp, ftp.jaist.ac.jp, ftp.riken.go.jp, ftp.u-aizu.ac.jp

⁴graphicx パッケージは graphics パッケージの一部である.

あるいは

```
\documentclass[a4paper]{jreport}
\usepackage{D6math,D6graphicx}
\Depconfig
```

のように、用いるスタイルファイル名 (.sty を除いたもの) を `\usepackage{}` を用いて取り込めばよい。graphicx パッケージを呼び出す際に指定するデフォルトのデバイスドライバは dvips である。他のデバイスドライバを使用したい場合は `\usepackage[dvipdf]{Dennou6}` あるいは `\usepackage[dvipdf]{D6graphicx}` とオプション指定すれば良い。

2 D6style.sty

2.1 概要

Dheadings 電腦標準スタイル. 章のタイトル等がヘッダーに入る.

Dmyheadings ヘッダーの情報をマニュアルで指定する形式.

DAheadings Dheadings と同様だが、章のはじめのページにもヘッダー・フッターを入れる.

DAmyleadings Dheadings と同様だが、章のはじめのページにもヘッダー・フッターを入れる.

Dtop ページ番号をヘッダーに入れたシンプルな書式.

電腦標準ページスタイルの形式は、

1. 片面印刷処理の場合、もしくは両面印刷処理の場合の右ページ⁵

タイトル	右サブタイトル	ページ

内容		

パス名	ファイル名 (取り込みファイル名)	日付 (著者)

2. 両面印刷処理の場合の左ページ

ページ	左サブタイトル	タイトル

内容		

日付 (著者)	パス名 ファイル名 (取り込みファイル名)	

⁵ スタイルオプションとして `twopage` を指定した場合は両面印刷処理となる。また、`jbook` スタイルを選択した場合はデフォルトで両面印刷処理である。

これらのヘッダー、フッターに入れる情報は、`\Dtitle`, `\Dauthor`, `\Ddate`, `\Dpath`, `\Dfile`, `\Dfinc` で指定する。

さらに, `Dmyheadings`, `DAmyheadings` では, `\markright`, `\markboth` コマンドが有効となる。また, `Dheadings`, `DAheadings` では, 章, 節の名前がヘッダーのサブタイトルに設定される。

`\Dinclude`, `\Dinput` を用いると, それぞれ, `\include`, `\input` によるファイルの取り込みがなされ, 各々フッターのファイル名, 取り込みファイル名が設定される。

2.2 Dheadings ページスタイル

1. 機能

電脳標準ページスタイルを指定する。

2. 使用方法

```
\pagestyle{Dheadings}
```

3. 引数

なし。

4. 備考

- (a) 左右のサブタイトルは用いるスタイルにしたがって次の様に設定される。

	(j)book, (j)report	(j)article
片面の右サブタイトル	章見出し	セクション見出し
両面の左サブタイトル	章見出し	セクション見出し
両面の右サブタイトル	セクション見出し	サブセクション見出し

- (b) 章のタイトルなどのページにもヘッダーを出すには, `\pagestyle{DAheadings}` を用いる。

2.3 Dmyheadings ページスタイル

1. 機能

電脳標準ページスタイルを指定する。サブタイトルはマニュアルで設定する。

2. 使用方法

```
\pagestyle{Dmyheadings}
```

3. 引数

なし。

4. 備考

- (a) 左右のサブタイトルは, `\markboth`, `\markright` によって指定できる。

```
\markboth{左サブタイトル}{右サブタイトル}
\markright{右サブタイトル}
```

これらの引数は動く引数であるので注意が必要である。

- (b) 章のタイトルなどのページにもヘッダーを出すには `\pagestyle{DAmyheadings}` を用いる。

2.4 Dtop ページスタイル

1. 機能

ページ番号を上に打つ簡単なページスタイルを指定する。

2. 使用方法

```
\pagestyle{Dtop}
```

3. 引数

なし。

2.5 Dtitle

1. 機能

ヘッダに表示するタイトルを指定する。あわせて、`\maketitle` で書かれるタイトルも指定する。

2. 使用方法

```
\Dtitle{title}
```

```
\Dtitle[header-title]{title}
```

3. 引数

<i>header-title</i>	ヘッダに表示するタイトル。省略された場合、 <i>title</i> が使われる。
<i>title</i>	<code>\maketitle</code> で使われるタイトル。

2.6 Dauthor

1. 機能

フッタに表示する著者名を指定する。あわせて、`\maketitle` で書かれる著者名も指定する。

2. 使用方法

```
\Dauthor{author}
```

```
\Dauthor[header-author]{author}
```

3. 引数

<i>header-author</i>	フッタに表示する著者名。省略された場合、 <i>author</i> が使われる。
<i>author</i>	<code>\maketitle</code> で使われる著者名。

4. 備考

- (a) フッタに表示するべき著者名が空の場合 (初期設定) にはその周りの括弧は書かれない。

2.7 Ddate

1. 機能

フッタに表示する日付を指定する. あわせて, `\maketitle` で書かれる日付も指定する.

2. 使用方法

```
\Ddate{date}
\Ddate[header-date]{date}
```

3. 引数

header-date フッタに表示する日付. 省略された場合, *date* が使われる.
date `\maketitle` で使われる日付.

2.8 Dpath, Dfile, Dfinp

1. 機能

フッタに表示するパス名, ファイル名, 取り込みファイル名を指定する.

2. 使用方法

```
\Dpath{path-neme}
\Dfile{file-neme}
\Dfinp{input-file-neme}
```

3. 引数

path-name フッターに表示するパス名
file-name フッターに表示するファイル名
input-file-name フッターに表示する取り込みファイル名

4. 備考

- (a) ファイル名は`\Dinclude`, 取り込みファイル名は`\Dinput`によってもセットされる.
- (b) 取り込みファイル名が空の場合 (初期設定) にはその周りの括弧は書かれない.

2.9 Dinclude, Dinput

1. 機能

各々, フッタに表示するファイル名, 取り込みファイル名を設定し, `\include`, `\input` によるファイルの取り込みを行う.

2. 使用方法

```
\Dinclude{file-name}
\Dinput{input-file-name}
```

3. 引数

file-name \include で取り込むファイル名
input-file-name \input で取り込む取り込みファイル名

4. 備考

- (a) \Dinclude(\include) では, 改ページが行われる. また, 通常の\include と同様, \includeonly による部分コンパイルが可能である.

2.10 Dchapter

1. 機能

章の見出し, 番号等を記憶する.

2. 使用方法

\Dchapter{*heading*}
 \Dchapter[*toc-entry*]{*heading*}

3. 引数

heading 章の見出しに使用される文字列
toc-entry 目次の項目, ページヘッダーの柱として使用する文字列. 省略時は *heading* 引数で代用する.

4. 備考

- (a) 章番号の無い章を作成するには, \Dchapter* コマンドを用いる. \chapter* と違って, 柱の変更と目次の項目作成が行われる.
- (b) 章の見出しの出力は次の\Dchapterhead コマンドによって行われる.
- (c) (j)article スタイルでは無視される.
- (d) \Dchapter, \Dchapterhead は, 主として分割したファイルを\Dinclude によって読み込む場合の便宜のために用いられる.
- ある章 (あるいはその一部) を構成するファイルを取り込む時, 主ファイルを,

```
\Dchapter{はじめに}
\Dinclude{intro}
\Dinclude{intro2}
\Dchapter{おつぎに}
\Dinclude{future}
```

のようにして, 取り込まれるファイル (この場合 intro.tex) を

```
\Dchapterhead
```

ではじめておくと, 通常のように処理できる. こうしておくと, 章の構成が主ファイルから明瞭となり, しかも\includeonly 機能を用いて intro.tex をコンパイルしない設定にした場合でも不都合が起らない.

2.11 Dchapterhead

1. 機能

章の見出しを出力する.

2. 使用方法

```
\Dchapterhead
```

3. 引数

なし.

4. 備考

(a) あらかじめ, \Dchapter コマンドで章の見出し名が設定されている必要がある.

(b) jarticle スタイルでは無視される.

3 D6misc.sty

3.1 概要

Dmisc.sty は, ラベルの参照, 日付等のマクロ, いくつかの便利な環境を提供する.

3.2 マクロの説明

3.2.1 Dreference 環境

1. 機能

参考文献リストを出力する環境

2. 使用方法

```
\begin{Dreference}  
\end{Dreference}
```

3. 引数

なし.

4. 備考

(a) 基本的にはdescription環境と同様である. タイトルを英語にするには, Dselect.sty を使用し, \Dnewselect{J}, \DoffJ, とする必要がある. (dennou.sty では, jarticle 等を用いたときには日本語に, article 等を用いたときには英語に自動的に設定される.)

3.2.2 Dnitemize 環境

1. 機能

行間の狭い itemize 環境

2. 使用方法

```
\begin{Dnitemize} ... \end{Dnitemize}
```

3. 引数

なし.

3.2.3 Dlist 環境

1. 機能

桁の揃った description 環境

2. 使用方法

```
\begin{Dlist}[template] ... \end{Dreference}
```

3. 引数

template ラベルの幅を決める文字列

4. 備考

- (a) *template* には, 環境の中のラベルのうち最長の文字列を指定する.
- (b) ラベルの box の幅は, *template* の文字列の幅に `\Dlistlabalsep` で指定する長さを足したものとなる.

3.2.4 Dparskip, Dnoparskip

1. 機能

段落間に空白を入れる機能をオン・オフする

2. 使用方法

```
\Dparskip  
\Dnoparskip
```

3. 引数

なし.

4. 備考

- (a) 段落間の空白は 3ex である.

3.2.5 Dparindent, Dnoparindent

1. 機能

段落開始時のインデントをオン・オフする

2. 使用方法

```
\Dparskip  
\Dnoparskip
```

3. 引数

なし.

4. 備考

- (a) インデント量はデフォルト値が使用される.

3.2.6 Dtoday

1. 機能

L^AT_EX のフォーマット時の日付を yy/mm/dd の形式で出力する

2. 使用方法

```
\Dtoday
```

3. 引数

なし.

4. 備考

- (a) fragile であるので, 動く引数で使う場合には`\protect` が必要.

3.2.7 Dentry

1. 機能

ラベルをつけ, 同じ名前の索引エントリを作る.

2. 使用方法

```
\Dentry{entry-name}
```

3. 引数

entry-name ラベル, 索引エントリ名となる文字列

3.2.8 Dsidenote

1. 機能

右マージン (左ページの場合は左マージン) に文字列を出力する.

2. 使用方法

`\Dsidenote{string}`

3. 引数

string 出力する文字列

4. 備考

- (a) 文字のサイズは `scriptsize` がデフォルトである.

3.2.9 Deqlab, Deqref etc.

1. 機能

式, 図, 表, 節, 章にラベルをつける. また, それらに見合った参照文字列を出力する.

2. 使用方法

`\Deqlab{label}` etc.

`\Deqref{label}` etc.

3. 引数

label ラベル識別子の文字列

4. 備考

- (a) 次の様なものがある. ラベル識別子には各々に対応した接頭子が付与される.

英語選択時とは, `Dselect.sty` を使用し, `\Dnewselect{J}`, `\DoffJ`, としたときである. (`dennou.sty` では, `jarticle` 等を用いたときには日本語に, `article` 等を用いたときには英語に自動的に設定される.)

4 D6version.sty

4.1 概要

`D6version.sty` `Dversion.sty` は, 電脳ライブラリマニュアルバージョン管理用に作られたマクロを提供する.

4.2 マクロの説明

4.2.1 Dver

\Dver 1. 機能

バージョン番号を記憶させておき, Dversion で参照できるようにする.

2. 使用方法

`\Dver{4.1.1}`

3. 引数

バージョン番号.

4. 備考

- (a) HISTORY.tex などの別ファイルに書き込んでおき, バージョンの統合管理をするのに用いる.

4.2.2 Dversion

\Dversion 1. 機能

Dver で記憶したバージョン番号を参照する.

2. 使用方法

`\Dversion`

3. 引数

なし.

4. 備考

- (a) HISTORY.tex などの別ファイルに Dver で書き込まれているバージョン番号を参照するのに用いる.

4.2.3 Dmodify

\Dmodify 1. 機能

日付を記憶させておき, Dmoddate, DmoddateJ で参照できるようにする.

2. 使用方法

`\Dmodify{92}{6}{2}`

3. 引数

年月日.

4. 備考

- (a) HISTORY.tex などの別ファイルに書き込んでおき, バージョンの統合管理をするのに用いる.

4.2.4 Dmoddate, DmoddateJ

- `\Dmoddate` 1. 機能
`\DmoddateJ` `Dmodify` で記憶した日付を参照する.
2. 使用方法
- `\Dmoddate`
`\DmoddateJ`
3. 引数
- なし.
4. 備考
- (a) HISTORY.tex などの別ファイルに `Dmodify` で書き込まれている日付を参照するのに用いる. `\Dmoddate` は 92/06/02 という形式で, `\DmoddateJ` は 1992 年 6 月 2 日という形式で出力する.

5 D6math.sty

5.1 概要

`D6math.sty` `Dmath.sty` は, 数式を出力するためのいくつかの便利なマクロを提供する.

5.2 マクロの説明

5.2.1 DD,DP

- `\DD` 1. 機能
`\DP` 全微分, 偏微分
2. 使用方法

$\backslash DD\{A\}\{x\}$	$\frac{dA}{dx}$
$\backslash DD[2]\{A\}\{x\}$	$\frac{d^2A}{dx^2}$
$\backslash DD\{\}\{x\}$	$\frac{d}{dx}$
$\backslash DP\{A\}\{x\}$	$\frac{\partial A}{\partial x}$
$\backslash DP[2]\{A\}\{x\}$	$\frac{\partial^2 A}{\partial x^2}$
$\backslash DP[] [y]\{A\}\{x\}$	$\left(\frac{\partial A}{\partial x}\right)_y$
$\backslash DP[2] [y]\{A\}\{x\}$	$\left(\frac{\partial^2 A}{\partial x^2}\right)_y$

5.2.2 Dvect,Dlapla,Ddiv etc.

$\backslash Dvect$	1. 機能
$\backslash Dlapla$	ベクトル表記
$\backslash Dgrad$	
$\backslash Ddiv$	2. 使用方法
$\backslash Drot$	

	$\backslash Dboldvect$ 指定時	$\backslash Darrowvect$ 指定時
$\backslash Dvect\{v\}$	\boldsymbol{v}	\vec{v}
$\backslash Dlapla A$	$\nabla^2 A$	
$\backslash Dlapla[4] A$	$\nabla^4 A$	
	$\backslash Dnablagrad$ 指定時	$\backslash Dchargrad$ 指定時
$\backslash Dgrad A$	∇A	$\text{grad}A$
$\backslash Ddiv \backslash Dvect\{v\}$	$\nabla \cdot \boldsymbol{v}$	$\text{div} \boldsymbol{v}$
$\backslash Drot \backslash Dvect\{v\}$	$\nabla \times \boldsymbol{v}$	$\text{rot} \boldsymbol{v}$

3. 備考

- (a) `\Dvect` のスタイルは `\Dboldvect` (デフォルト), `\Darrowvect` コマンドによって切り替えることができる.
- (b) `\Dgrad`, `\Ddiv`, `\Drot` のスタイルは `\Dnablagrad` (デフォルト), `\Dchargrad` コマンドによって切り替えることができる.

5.2.3 Dinv, Dd, Ddint, Dtint, Dsqrt

<code>\Dinv</code>	1. 機能	
<code>\Dd</code>		
<code>\Ddint</code>	積分などその他の数式表記	
<code>\Dtint</code>	2. 使用方法	
<code>\Dsqrt</code>		
	<code>\Dinv{2}</code>	$\frac{1}{2}$
	<code>\int A \Dd x</code>	$\int A dx$
	<code>\Ddint A \Dd x \Dd y</code>	$\iint A dx dy$
	<code>\Dtint A \Dd x \Dd y \Dd z</code>	$\iiint A dx dy dz$
	<code>\Dsqrt{g}+\Dsqrt{h}</code>	$\sqrt{g} + \sqrt{h}$

3. 備考

- (a) `\Dd`, `\Ddint`, `\Dtint` では, スペースの調整が行なわれている.
- (b) `\Dsqrt` では, ルートの高さ調整が行なわれている.

5.2.4 Ddsty

<code>\Ddsty</code>	1. 機能
	<code>\displaystyle</code> の略記法
	2. 使用方法
	<code>\Ddsty</code>

6 D2float.sty

6.1 概要

`\D2float.sty` `D2float.sty` はフロート制御カウンター・パラメータを変更することで文中のフロート⁶をできるだけソースコードで指定した位置に出力できるようフロートパラメータを変更している.

⁶フロートとは図表類の総称. 文章中の適切な位置に”浮かべ”る必要がある要素であるという意味. 図表だけのページを”フロートページ”という.

ユーザが呼び出して使うコマンドはない。このファイルの中で指定しているパラメータの値は必ずしも最良なものではないことに注意されたい。

6.2 変更しているカウンター一覧

- topnumber
- bottomnumber
- totalnumber
- dbltopnumber
- \topfraction
- \bottomfraction
- \textfraction
- \floatpagefraction
- \dbltopfraction
- \dblfloatpagefraction

7 D6prog.sty

7.1 概

D6prog.sty

Dprog.sty あ, ア う 垢あ 灰 舛垢 . ア 措阿 , verbatim 燭
, 喉 韻 .

7.2 摺

7.2.1 Dproginput, Dproginput*

\Dproginput
\Dproginput*

1. 機

.う ア 措阿 垢 .

2. 拶

\Dproginput{file}
\Dproginput*{file}

3. 引植

file 就 垢 .う

4.

- (a) \Dproglineoff あ , 燭 \Dprogline あ 垢靴い 喉 韻 .
- (b) \Dproginput* "□" 垢 .

7.2.2 Dprogram, Dprogram*

Dprogram 1. 機
Dprogram* 好 ア 措阿 垢

2. 拶

```
\begin{Dprogram} ... \end{Dprogram}
\begin{Dprogram*} ... \end{Dprogram*}
```

3. 引植

4.

(a) \Dproglinedoff あ , 燭 \Dprogline あ 垢靴い 喉 韻 .
(b) Dprogram* ” ” 垢 .

7.2.3 Dproglinedoff, Dproglinedon, Dproglinedstart

\Dproglinedoff 1. 機
\Dproglinedon 喉 制顧擦 . \Dproglinedoff , \Dproglinedon , \Dproglinedstart
\Dproglinedstart 摺 あ

2. 拶

```
\Dproglinedoff
\Dproglinedon
\Dproglinedstart{start-num}
```

3. 引植

start-num 開 (1)

7.2.4 Dprogininput, Dprogram う タ

\Dprogsiz 爾 灰 \Dprogininput, Dprogram タ , \renewcommand 燭 \def あ あ.
\Dprogskip Dprogsiz 字あ さ (\small)
\Dprogline \Dprogskip (2ex)
\Dproglinedwidth \Dprogline 喉 璽 (\scriptsize\it #1)
\Dproglinedsep \Dproglinedwidth 喉 (3em)
\Dproglinedsep 喉 う (1em)

8 D6select.sty

8.1 概要

D6select.sty Dselect.sty は、ファイルの一部を選択して出力する機能を設定する。日本語版と英語版を同じファイルに入れておき、選択して出力する場合などに便利である。

8.2 マクロの説明

8.2.1 Dnewselect

1. 機能

選択出力コマンドを定義する.

2. 使用方法

```
\Dnewselect{select-name}
```

3. 引数

select-name 選択条件の名前

4. 備考

- (a) 例えば, \Dnewselect{J}とすると,

```
\DonJ
\DoffJ
\DselJ{text1}{text2}
```

の3つのコマンドが定義される. \DonJ の指定後は, \DselJ{text1}{text2} によって *text1* の内容が出力され, *text2* の内容は出力されない. また \DoffJ の指定後は *text2* の内容が出力され, *text1* の内容は出力されない. 定義直後の規定値は \DonJ の指定後と同じ状態である.

- (b) なお D6select スタイルにおいて \Dnewselect{J} をデフォルトで定義している. ”j” の付くクラス⁷を使用している場合 \DonJ が, その他の場合 \DoffJ がデフォルトで採用される.

9 D6graphicx.sty

9.1 概要

D6graphicx.sty は, L^AT_EX2e の標準拡張パッケージ graphicx パッケージを使用し, 図版の取り込みを可能とする. 提供する機能は旧版の Depsf.sty と Depspic.sty に含まれるものと同様あるいは機能拡張されている.

9.1.1 D6graphicx

1. 使用方法

```
\usepackage{D6graphicx} \usepackage[device_driver]{D6graphicx}
```

2. 引数

device_driver 利用するデバイスドライバ名

⁷正確には”西暦”マクロが定義されているクラス

3. 備考

- (a) 利用するデバイスドライバのデフォルトは *dvips* である. このほかに利用できるデバイスドライバのグラフィック機能の一覧は参考文献 [?] を参照のこと.
- (b) `\usepackage{Dennou6}` を指定すると内部で `D6graphicx` が呼び込まれる. `Dennou6` スタイルファイルを使用する場合でデバイスドライバを指定するには `\usepackage[device_driver]{Dennou6}` とすれば良い.

9.2 マクロの説明

9.2.1 Depssetkeys

1. 機能

PostScript ファイルを取り込むマクロに共通のグローバルなデフォルト値を設定する

2. 使用方法

`\Depssetkeys[key_val_list]`

3. 引数

key_val_list *graphicx* パッケージで利用できるキーを列挙.

4. 備考

- (a) なし.

9.2.2 Depsfdrafttrue

1. 機能

取り込んだ PostScript ファイルが出力されないようにする.

2. 使用方法

`\Depsfdrafttrue`

3. 引数

なし.

4. 備考

- (a) このコマンドは, PostScript をサポートしないプリンタ等で出力する場合を念頭においている. PostScript ファイルの内容の代わりにそのファイル名が出力される.

9.2.3 Depsf

1. 機能

PostScript ファイルを取り込む。

2. 使用方法

```
\Depsf{file}
\Depsf[width]{file}
\Depsf[][height]{file}
\Depsf[width][height]{file}
\Depsf[width][height][key_val_list]{file}
```

3. 引数

<i>width</i>	取り込む幅
<i>height</i>	取り込む高さ
<i>key_val_list</i>	<i>graphicx</i> パッケージで使えるキーを列挙.
<i>file</i>	取り込むファイル名

4. 備考

- (a) 幅または高さを指定した場合はそれにおさまるようにスケーリングされる。
- (b) `postscript.sty` を用いる場合は、それが `Depsf.sty` の前に読み込まれるように、`documentstyle` の `[]` の中で `postscript` を左に書く。
- (c) `epsf.sty` を使う場合は、自動的に読み込まれるので指定する必要はない。
- (d) PostScript ファイルには `%%BoundingBox:` コメントが入っている必要がある。このコメントがないとき、あるいは、ファイルが見つからないときにはエラーとなる。
- (e) `[width]`, `[height]` にあたえる値は `2cm` や `40pt` のように単位を指定しなくてはならない。
- (f) `[key_val_list]` 内に (自由な単位で) 幅, 高さを指定できるが, `[width]`, `[height]` に値を入れてはならない。
- (g) `[key_val_list]` 内で回転等の操作を指定した場合に正しくプリントアウトするにはデバイスドライバとして `dvips` といったグラフィック機能をフルサポートしたものを使用しなくてはならない。

9.2.4 Depsfpic 環境

PostScript ファイルを取り込み、さらに取り込んだ図の任意の位置に \LaTeX の出力を挿入するためのコマンドを提供する。

1. 機能

PostScript ファイルを取り込み、`picture` 環境に入る。

2. 使用方法

```

\begin{Depspic}(width,height){file}
\begin{Depspic}(width,height)(xorg,yorg){file}
\end{Depspic}

```

3. 引数

width 取り込む幅 (単位は 1/72 インチ)
height 取り込む高さ (単位は 1/72 インチ)
xorg 基準点の x 座標値 (単位は 1/72 インチ), 省略値は 0.
yorg 基準点の y 座標値 (単位はポイント), 省略値は 0

4. 備考

- (a) 幅, 高さ, 原点座標の単位は 1/72 インチであり, 1pt と僅かに異なる.
- (b) 図のスケーリングに使われるのは高さのみである.
- (c) 基準点座標指定が (0,0) または省略した場合には, Dllcorner.ps または Dulcorner.ps が読み込まれ, それぞれ左下, 左上の端のマークを出力する. 前者は通常の紙を縦長に使う設定 (ポートレート), 後者は横長 (ランドスケープ, landscape.sty を読み込んだ状態) の場合である. これらの .ps ファイルは然るべきディレクトリに入れられ, そのパス名が Depspic.sty 内に指定されている必要がある.
- (d) ポートレートでは, 基準点座標指定は, 紙の左下を (0,0) として右に x, 上に y としたときの画面の左下の端 (マークが出る位置) の座標値とするとよい. ランドスケープでは, 紙の左上を (0,0) として下に x, 右に y としたときの画面の左上 (マークが出る位置) の座標値とするとよい.
- (e) PostScript ファイルには %%BoundingBox: コメントが入っている必要がある. このコメントがないとき, あるいは, ファイルが見つからないときには出力時にエラーとなる.

Deput, Deputc, Deputl, Deputr

1. 機能

Depspic 環境内で指定した座標値の場所に引数のテキスト等を出力する.

2. 使用方法

```

\Deput(x,y){body}
\Deputc(x,y){body}
\Deputl(x,y){body}
\Deputr(x,y){body}
\Deput(x,y)[angle]{body}

```

3. 引数

x x 座標 (単位は 1/72 インチ)
y y 座標 (単位は 1/72 インチ)
body 出力するテキスト等
angle *body* の回転角度 (反時計回りに *angle* 度)

4. 備考

- (a) `\Deputc` は指定した点がテキストの中心に一致するように, `\Deputl` は指定した点がテキストの左端に一致するように, `\Deputr` は指定した点がテキストの右端に一致するように位置揃えをする. `\Deput` は位置揃えをしない.
- (b) ポートレートでは右が x , 上が y , ランドスケープでは下が x , 右が y である. ランドスケープでは通常の `picture` 環境と違うので注意.
- (c) 回転の指定は `\Deputc`, `\Deputl`, `\Deputr` でも使用できる.

これらのコマンドの仕様は, `Ghostview` を使ってプレビューしながら作業をするのに都合が良い様になっている. `Ghostview` を使った手順は次の通りである.

1. 基準点座標を省略 (または $(0,0)$ と) して, `Depspic` 環境を指定して \LaTeX を実行する.
2. `Ghostview` で基準点の印の端 (L 印の左下, または「印の左上) の座標値読みとる. 画面の上部の数字がそれである.
3. 読み取った基準点の座標値を `Depspic` 環境の指定に入れる.
4. `Ghostview` の画面から, テキストを挿入したい場所の座標位置を読み取る.
5. その座標値を用いて, `\Deputc` コマンド等でテキストを指定する.
6. 再び \LaTeX 処理を実行し, `Ghostview` で確認する.

9.3 Depsx, Depsy, Depsxhalf, Depsyhalf

1. 機能

挿入できる最大の大きさを表す変数

2. 使用方法

```
\begin{Depspic}(\Depsx,\Depsy){file}
\begin{Depspic}(\Depsx,\Depsyhalf){file}
\begin{Depspic}(\Depsxhalf,\Depsy){file}
```

3. 備考

- (a) 入れる図が横長で, \TeX の画面がポートレートの場合, `\Depsyhalf` 指定を使うとよい. また, 入れる図が縦長で, \TeX の画面がランドスケープの場合, `\Depsxhalf` 指定を使うとよい.
- (b) OHP 用など, 図をめいっぱい大きくしたいときは, `Dfulpage.sty` を読み込むように指定する. ただし, `documentstyle` の `[]` の中で, `Dfulpage` の指定は `a4j` などよりも後ろで `Depspic.sty` よりも前でなければならない.

10 Dcomment.sty

10.1 概要

Dcomment.sty は、ファイルの一部をコメントとして扱うコマンドを定義する。

Dcomment

10.2 Dcomment 環境

1. 機能

環境の中のテキストは全てコメントとして扱う

2. 使用方法

```
\begin{Dcomment} ... \end{Dcomment}
```

3. 引数

なし

4. 備考

- (a) ネスティングはできない。
- (b) Dcomment.sty のかわりに DNcomment.sty を読み込むとコメント指定が無視される。

謝辞

Dennou Style ver. 6 は Dennou Style ver. 5 を基に作成しました。多くのコードは ver. 5 に修正を加えたものであり、ver. 5 を作成に携わった、沼口敦さん、竹広真一さん、石渡正樹さん、余田成男さん、林祥介さんをはじめとする方々に敬意を表します。

Dennou Style ver. 6 に含まれてしまったバグの多くは山田学の未熟さからくるものである。以後の開発に役立てるために修正すべき点の連絡は歓迎します。

Copyright

Copyright (C) 2001 Dennou Style ver.6 プロジェクト. All rights reserved.

* Dennou Style Ver.6 は BSD ライセンスでの配布をおこないます。以下は英語の著作権表示を訳した文章であり、正式な著作権は、英語の原本に従うものとします。

変更の有無にかかわらず、ソースおよびバイナリ形式の再配布および利用は、以下の条件を満たしていれば、これを許可する。

- ソース・コードの再配布は、上記の著作権表示、この条件項目、および、以下の免責事項を保存しなければならない。
- バイナリ形式の再配布は、上記の著作権表示、この条件項目、および、以下の免責事項を、その配布に付随する説明書、あるいはその他の資料のいずれかに明記しなければならない。
- 前もって特別に許諾を得ない限り、このソフトウェアから派生した製品の推奨や販売促進のために、このプロジェクト名と貢献者達の名前を利用してはならない。

このソフトウェアは「このままの形で」提供され、明示的あるいは言外の保証は、商用利用および特定目的への適合に対する言外の保証も含み、またこれらだけに限らず、存在しない。たとえ以下のような損害の可能性を示唆されていたとしても、どのような形にしるこのソフトウェアの利用から発生した問題において、このプロジェクトと貢献者達は、(代替製品やサービスの調達; 利用権, データ, あるいは利益の損失; あるいは営業の中断を含む, またこれらだけに限らず) 直接的に、間接的に、偶然に、特別に、懲罰上、あるいは、必然的に生じてしまった損害に対し責任はなく、いかなる責任理論上でも契約の有無に係わらず厳密な責任はなく、また (過失あるいはその他を含む) 不法行為に対しても責任はない。

参考文献

- [1] Dennou style ver. 5. (<http://www.gfd-dennou.org>).
- [2] Donald E. Knuth 著, 斎藤信男 監修, 鷺谷好輝 訳, 『改訂新版 T_EX ブック』, アスキー出版局.
- [3] M. Goosens, F Mittelbach, A. Samarin 共著, アスキー書籍編集部監訳, 『The L^AT_EX コンパニオン』, アスキー出版局.
- [4] M. Goosens, S. Rahtz, F. Mittelbach 共著, 鷺谷好輝 訳, 『L^AT_EX グラフィックスコンパニオン』, アスキー出版局.
- [5] 奥村晴彦, 『L^AT_EX2e 美文書作成入門』, 技術評論社.
- [6] 藤田眞作, 『L^AT_EX2e 階梯』, アジソンウェスレイ.
- [7] 『L^AT_EX 自由自在』, 磯崎秀樹, サイエンス社.